

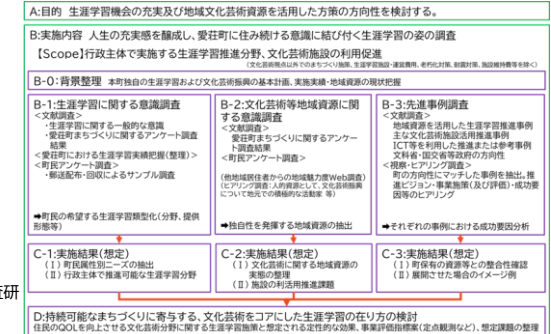
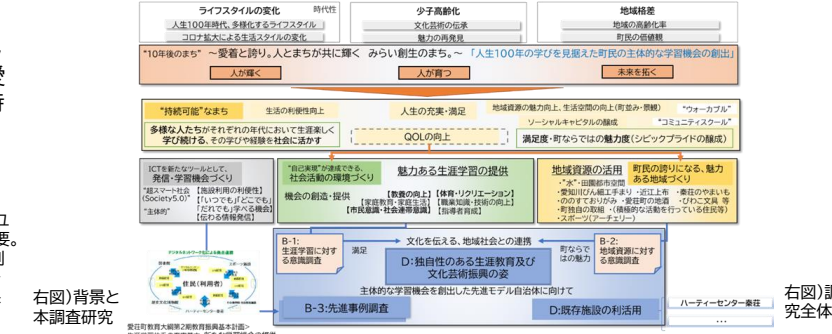
『これからの生涯学習の在り方および文化芸術について公共施設や地域資源を活用した持続可能なまちづくりに関する調査研究(滋賀県愛荘町)』概要

実施期間: 令和3年(2021年)4月~令和4年(2022年)3月、 実施主体: 愛荘町教育委員会事務局、地方自治研究機構、株式会社日本海コンサルタント

【目的】(序章)

人々が自己の充実・啓発や生活の向上のために、自発的意思に基づき、自己に適した手段や方法を自ら選んで、生涯を通じて行うことが望まれる生涯学習に対して、愛荘町独自の生涯学習および文化芸術振興に関する調査研究を行い、これからの時代のにおける生涯学習の在り方、特性にあった方向性、施策展開の検討および持続可能な施設利活用在り方を検討する。

<背景>
 ・人生100年時代、生涯学習の在り方である自ら学ぶという姿勢をどのように培うが重要。愛荘町においても、ユビキタス社会における情報の多様化・社会情勢等の変化に合致した生涯学習を町民へ提供する必要。
 ・取り巻く主な現状と課題について、「少子化・高齢化・人口減少への対応」、「超スマート社会(Society 5.0)の到来」、「地域コミュニティの活力低下への対応」、「人生100年時代を見据えたライフステージへの対応」、「グローバル化の進展」等があり、町民の満足度を向上し、持続可能なまちを実現するためには、これまでに以上に、町の保有する地域資源等を活かした独自の在り方、愛荘町ならではの教育環境の充実・機会提供が重要。



【主な調査結果】

◎愛荘町の現状と課題(第1章)

・愛荘町は文化芸術資源等多くの資源を保有。
 ・令和2年度愛荘町第2期教育振興基本計画を策定。「愛着と誇り。人とまちが共に輝く みらい創生のまち。」を目指し5つの教育の視点を定め、生涯学習等を推進している。



「5つの教育の視点」

つながり
 人脈を豊かにすることで多様な機会を創出し、これからの時代の学びの場を考える中で、年代を超えた関係性によって多岐にわたる学びの場が実現が期待されます。
 ところざし
 学びの場である。夢・志・理想を創ること。「学び」を生み出す「学び」は「学び」にのみならず、こうした学びの場を「学び」の場として活用が期待されます。
 にぎわい
 人が育ち合える場、学びの場を創出することで、他者との関わりが育ち、学びへと発展します。そして、学び続ける・社会育ちが実現してまいります。
 やすらぎ
 安全・安心な環境を整え、学びの場を創出することで、豊かな心身の育ちが育ちます。これによって「学び」を創出することができ、それは「学び」の場として活用が期待されます。
 かがやき
 全ての人が自身の個性・強み・魅力・長き、あるには可能性と無限の力を発揮することによって「学び」の場を創出し、これからの時代、自身や社会の発展に貢献することを目指しています。

教育振興基本計画の骨組み

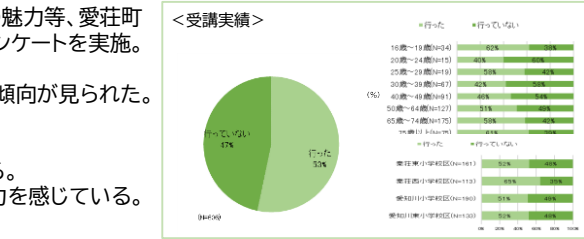


◎国内の動向(第2章)

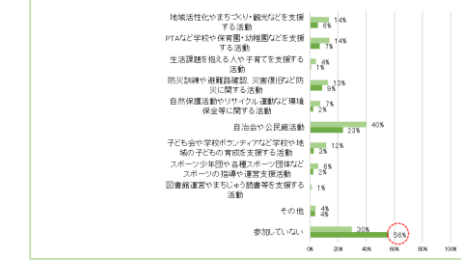
今後の方向性・指針を整理するため、以下の文献調査を行った。
 【文部科学省 令和2年度文部科学白書】
 ・「住民の主体的な参加による持続可能な社会づくり、地域づくりに向けて、社会教育はこれまで以上にその役割を果たすことが期待」
 【中央教育審議会分科会 令和2年】
 ・生涯学習・社会教育は、個人の成長と地域社会の発展の双方に重要な意義と役割を持つ。その要となるのが、学びの場を通じた住民相互の「つながり」であり、この「つながり」が、新しい時代の生涯学習・社会教育の鍵となる。

◎アンケート調査(第3章)

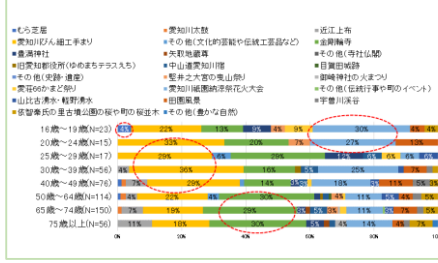
生涯学習・地域資源に関する「町民アンケート」を実施。併せて愛荘町の地域資源の魅力等、愛荘町への来訪者が多いと思われる近隣の地域(大阪府、愛知県、滋賀県内)へもWebアンケートを実施。
 ・生涯学習の受講者の地域への意識(まちづくり活動への関心など)が比較的高い傾向が見られた。
 ・受講経験者の方が、地域の魅力を外に発信したい傾向があった。
 ・若い世代でまちづくりや地域への協力意識が高い。
 ・子どものころに触れ、学んだ地域資源に関しては、大人になっても強く意識に残る。
 ・町民アンケート及び近隣地域でのアンケートも、ほぼ同様な地域資源に対して魅力を感じている。
 ・生涯学習等で、同じテーマでの交流・仲間づくりを期待する町民が多い。等



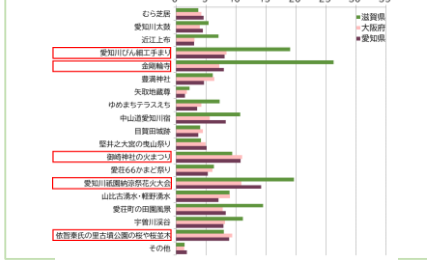
＜受講者の地域への意識＞



＜受講と地域への意識＞



＜近隣地域の愛荘町地域資源の魅力＞



➡生涯学習等は、様々な背景を有する多様な世代の人々がつながり、共に学ぶ合うことで、新たなアイデアの創出や課題解決につながり、更に、他者を理解し、受け入れ、共生する社会の実現にもつながる。多様で豊かな学びや「つながり」による生涯学習・社会教育の取組を通じて、これからの時代・社会の変革を「チャンス」と捉え「チャレンジする」生涯学習の在り方が求められる、そういった生涯学習の取組視点の変革が求められているのではないかと。

◎関係団体ヒアリング調査(第4章)

以下の5団体へのヒアリングを実施。「活動概要」、「生涯学習を推進する上での課題」等の情報を収集。
 ➡各団体で、伝統文化の継承や世代間、地域間の交流促進の取組を独自に実施中であり、持続可能な取組を考える上で、実績のある仕組み、中心となって活動している人々の存在も、文化芸術に関する地域資源と共に他地域に誇れる「愛荘町の地域資源」として、注目すべき。

団体名	注目する取組	地域資源・アピールポイント
愛荘町国際交流協会	Saturday Night English Meeting 多文化共生生ゲームはらメルボ	多国籍間の交流機会 学びあ場の提供
近江市布伝産業会館	後継者育成制度(職人プロジェクト) 小学校への出張授業	近江市布織人、認定制度 交流機会、情報発信の場としてのゆめまちテラス 学校教育への協力力 アトリエ(スクール・ごきん刺し)
愛知川びん細工手まりの館	夏休みびんでま教室 愛荘町ふるさと体験塾	愛知川びん細工手まり世代間の交流機会 地域資源の発信 保存会員の組織
愛荘町体育協会	心えウォーク愛荘 アーチェリー教室	アーチェリー選手進出実績 世代間の交流機会 体育競技施設を保有 指導者や選手
愛荘町文化協会	ひら芝居 ハーディー講座	町民が主体 ハーディーセンター兼在地区、世代間の交流機会 グループ団体の活動 会員のネットワーク

【今後に向けて】(第5章)

・これまでの生涯学習だけでなく、新しい時代の生涯学習の「姿(新しい価値の提供)」が求められる。
 ・「消費型」の生涯学習から「生産型(地域に貢献)」の生涯学習を提案。「地域で学ぶ」学習から「地域を創る」学びへの転換には、「町民の地域に対する関心を深めること」、「地域社会に目を向ける社会的な仕組み」が重要であり、自覚的に「学び—伝える」という行動型の循環サイクルの形成が重要である。
 ・町民自らが中心となり相互で「学びあう」学びで、地域と町民が共に成長し続ける取組に挑戦する。
 ・魅力度が高い文化芸術資源だけではなく、町民アンケートで分かった「若い世代や生涯学習経験者の地域に対する意識」や町内団体の独自の取組の仕組みや中心になって活動している人の存在も重要な「愛荘町の強力な地域資源」として捉える。
 ・生涯学習を「地域に還元する」取組において、学校・民間・行政が「循環を持続させる支援を行う強力なプラットフォーム」となることが考えられる。
 ・学校・地域・行政及び地域の企業団体や町民が、より連携を強化しながら、新しい発想で生涯学習を取り組むことが必要である。

